

ラオス・タイ旅行記 No.3

(首都ビエンチャン：その3)

戸田 順也

今回は首都ビエンチャン報告の第3回目で、ビエンチャンの最後の報告とともに、今回の旅行の主な目的地であるルアンパバーンへの第一歩までの報告となります。

今回の報告では、ビエンチャンの国立博物館、2つの寺院そしてこの街としては珍しくくらい大型店のピザ・ハウスなどを紹介します。

いよいよビエンチャンでの最終日となりました。10時にチェックアウトして、ルアンパバーンへのフライトは16:30なので、荷物は宿に預けて、見残していた国立博物館等に向かうために街へ出ることにしました。

ホテルを出て直ぐの小路を数十メートル入ったところにタートダム(黒塔)(写真1)があります。ガイドブック(地球の歩き方 ラオス編)の市内地図にチョット載っているだけで、どのようないわれの有る塔かも分かりませんが、周囲はロータリーになっていて朽ち果てたような状態で苔むしているので“黒塔”と呼ばれているのかもしれませんが、でも、街の中にこのような(昔は立派であったであろうが、今は誰も気にしないような)塔があるというのも趣のあるものでした。

写真2はタートダムと大通りを結ぶ小路に立っている何かの店の看板ですが、それには様々な方向を向いた矢印状の板が取り付けられており、その矢印の示す方向の都市までの距離が示してありました。因みに、黄色い矢印で示した方向版には“TOKYO 4120Km”と記されていました。街の中の店の看板にこのような表示版を設けるなどとは、この看板の店の主人はなかなかですね(一番近いのはタート・ルアンまで1Kmの表示でした)。



写真1



写真2

ホテルから 300m ほどしか離れておらず、市内の幹線道路の一つであるサムセンタイ通りに面したところにラオス国立博物館があります(写真 3)。入場料は 10,000KIP(約 115 円)です。入口で壊れかかったロッカーに荷物を預かってもらえます。約 1 時間半ほど掛けてゆっくり見学をしました。博物館の中には先史時代の遺物から現代のラオス建国までの様々な遺品、独立戦争・内戦時代の写真や兵器などが展示されています。当然のこと



写真 3

ですが、現在の社会主義国建設に関する展示には多くのスペースを割いており、フランス植民地時代の過酷な労働状況から独立運動へ、そしてアメリカ帝国主義との戦いというトーンで展示が続きます。

サムセンタイ通りを挟んで国立博物館の向かいには立派な文化会館(写真 4)があります。



写真 4



写真 5

博物館を出たのが正午少し前、その後ワット・ハーイソーク(写真 6~8)に行きましたが、このお寺の屋根の作りはなかなか立派なものでした。この寺の境内の木下には立像と共に涅槃仏がありましたし(写真 6)、境内の塀に沿って個別の墓がズラリと並んでいたのはこれまであまり見かけないものでした。



写真 6

また、このお寺に限らないのですが、境内には時々数匹の犬がいて、それが暑さのせいかだいたいが寝そべっているのですが、妙に気になる犬たちでした。何故って、人が通りかかると薄目を開けてジロッと見てすぐにまた目を閉じるのだから。



写真7



写真8

次に向かったのはワット・オントウです。ビエンチャンに到着した日に一度前を通ったのですが、境内に入らなかったのもう一度見てみたいと思ったからです。

お寺に入ろうとしたら、丁度門の前に3人の僧侶が立っており、そこへ数人の僧達に乗った車がやってきまして、門前の僧達もその車に乗っていずこかへ走り去りました。どこかで僧達が集まって修行でもするのでしょうか。

ワット・オントウの本堂に入ってみましたら、ここでも大きな座仏像が中央に鎮座し、その周りには小さな仏像が取り囲んでいました。たまたま一人の西洋人の若者が座禅を組んでおりました。このような若者をその後のお寺巡りでも何人か見かけましたが、仏教に興味を持つ若者も結構いるものですね。



写真9



写真10



写真 11

写真 11 はワット・オントウの本堂の窓飾りですが、このようなところにもブッタを型取った細工がしてあるのですね。

ワット・オントウを出たのは昼を過ぎていたので、そろそろ昼食の場所を探さなければなりません。



写真 12

街中を歩いていると珍しい店を見つけました。それが写真 12 です。

通りに面した小さな食堂の店頭で鯛に似た魚を丸ごと焼いて食べさせてくれるのです。塩がたっぷり掛かっていていかにも美味しそうでしたので、店に入ってみることにしました。でも丁度昼時でしたので、満席で残念ながらこの美味しそうなお魚にはありつくことはできませんでした。念のため値段を聞いたのですが、指を 4 本立てたので 40,000KIP(約 460 円)だったのでしょいか。

庶民の味(?)の魚料理をあきらめて、国立博物館の向かい側(ということは文化会館の隣)にあるこの街では珍しい大型のピザハウス(写真 13)に向かいました。



写真 13



写真 14

昼時ということもあって、若い人達で結構沢山の客が入っていました。ラオスでもイタリア料理は人気ようです。

コーラ(この店はペプシでした。コカとペプシは世界中どこへ行ってもありますね)

とベジピザという野菜中心のピザ（写真 14）を注文。出てきたのはイメージとそんなに違ってはいませんでした。直径 15~20cm 程度の比較的小ぶりでしたので、“小さすぎたかな”と思ったのですが、具もけっこう載っていて量的には丁度良いぐらいでしたし、味の方もまあまあでした。



写真 15

このピザハウスの入口付近に小さな祠が祭ってありました（写真 15）。ラオスではこのような祠はあちこちで見かけました。信心深いラオスでは当たり前のことなのでしょう。日本でも家の中に神棚を祭ったり、広い土地を持った旧家や会社の敷地内に小さな神社（祠）を設けたりしていますが、それと同じなのでしょうね。

昼食も無事済みしましたし、ビエンチャンでの日程は終了です。一度ホテルへ戻ってホテルから空港行きのシャトルがでる迄の間ホテルのロビーで休憩です。

時間になって空港シャトルの車に乗り込みましたが、西洋人が一人乗っており、聞いてみたらオランダ人でラオスには 10 年前に一度来ているので、今回は 2 度目だそうです。カメラマンとのことでしたが、私の英会話能力の不足からどのような分野の写真が得意かは分かりませんでした。ラオスまで写真を取りに来るくらいですから自然とか寺院とかアジアの人の生活とかに興味があるのでしょうか。分かったことは奥さんとは離婚して今は一人旅だということでした。

ビエンチャン空港には小さな国内線ターミナルと、少し大きめの国際線ターミナルが隣接しています（写真 16）。



写真 16



写真 17

国内線ターミナルは待合室もそれほど広くはなくて小さな地方空港という感じでした（写真 17）。待合室がそんな具合ですから、チェックインカウンターやチェックイン

ゲートも簡単な作りで、カウンターの向こう側に担当者が1人いるだけという簡素な作りです（写真 18,19）。



写真 18



写真 19

時間になってチェックインしてゲートの中の待合室に入りましたが、搭乗予定時間になってもなかなか搭乗が始まりません。出発予定時間まであと少しという頃になってようやく搭乗ゲートが開きました。搭乗ゲートを通るとすぐ目の前で飛行機が待っています。



写真 20

国内線ですのでプロペラ機かと思っていたのですが、なんと中型のジェット機でした（写真 20）。お客の数は？というと、半分近くは空席で機内後方の座席はいっぱいでしたが、前方はガラガラ状態です。”それならゆったり載せてくれれば良いのに”と思ったのですが、そんなことはお構いなく順番に後ろから詰めてしまったようです。私の席は3人席の窓側、隣の二人は優しそうな西洋人のおばさん



写真 21

達でした。飛行時間も短かったのでお話しするチャンスはありませんでしたが。

いつの間にか飛行機は山の中を飛んでおり、いよいよ今回の旅行の最大の目的地である古都ルアンパバーンに近づいているようです。ルアンパバーン空港もそれほど大きな空港ではありません（写真 21）。

飛行機は無事着陸、もちろん飛行機を降りてからターミナルまでは徒歩で向か



写真 22

料シャトルだったのですがねー。もっともこのことは、事前にメールで確認しておりましたので驚くことではありませんでしたが、ルアンパバーンは観光地ということですね)。車中ではさっそく翌日以降の観光案内と、どこへでも自動車で連れて行ってあげるよ（もちろん有料で）と宣伝をしておりました。

間もなく市の中心部に入っていました。時間帯も夕方ということもあったのでしょうか、けっこう人通りが多いという印象は受けましたが、ビエンチャンに比べるといかにも山の中の古い街という感じではありました。自動車もそこそこの台数は走っているのですが、空港から街中までの間にはどこにも信号は見当たりませんでした。

車中で話しているうちにさっそく問題発生です。今晚私を泊める予定の部屋のトイレを昨日まで泊まっていた客が壊してしまって、今日中に修理するので今晚は向かいの宿



写真 23

に部屋を取ってあるのでそこへ泊まってほしいということでした。やむなく真向かいの宿へ泊まることとなりました（写真 23）。結果的にはこの宿も規模的・設備的に同じようなものでしたので特段問題はありませんでしたが、旅に出るといろいろなことがありますねー。

ルアンパバーン第1日目の宿へのチェックインを終え、一休みしてから夕食のために街に出てみることにしました。ルアンパバーンはナイトマーケットで有名です。宿からそれほど遠くないところでナイトマーケットは開かれます。シーサワンウォン通りを歩行者天国にし、両側いっぱい様々なものが所狭し、と並んだマーケットが開かれるのです。小物から蛇のアルコール漬け、木工品などなど本当にいろいろなものがあるだけでも楽しいものです。今晚は様子を見るだけということで一周してみました。

（第3回報告 終わり）